

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0959
施設名	うめのき保育園
施設所在地	小平市鈴木町2-186-4
法人名	社会福祉法人小松福社会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

構造遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
自分を取り巻く環境を、抽象的な遊具を用い考え、再現し遊ぶ事で、認識していく場を大切にしています。

2. 活動スケジュール

- | | |
|-----|---|
| 4月 | 積み木を高く積んだり並べたり、自分のイメージを再現してみたりと一人遊びが中心 |
| 6月 | イメージが具体的になってきたり、遊具を組み合わせる自分の世界観を表現するようになってきたので遊具のバリエーションを増やす |
| 10月 | 友だちと言葉で互いのイメージを共有したり、やり取りしながらイメージと一緒に表現する姿が出てくる |
| 12月 | 園内で行われた積み木ショーを友だちと一緒に観た事で、翌日から積み木ショーで観た遊びを自分でもやってみたり、友だちと遊んだり、積み木ショーのおじさんの決まり文句が印象的だったのか、模倣し楽しんでいた。 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
積み木や積み木遊びと組み合わせる遊びながら見立てられる遊具
友達と遊びを共有できる空間

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

構造遊びを通して、自分の経験した身近な環境を再現し、遊ぶ事で知識として認識していく。

並べる・積む経験が十分経験が出来るように、リグノやネフスピール、積み木を多く出し経験できるように設定した。

経験したことの再現あそびに繋げるためにイメージが膨らむよう壁面でイメージが出来るようにした。保育者がアイデアを提案した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

一人遊びの時は完成し満足すると、できたー！と成功を喜んでいた。保育者は声かけやアイコンタクトで喜びを共感することを意識し成功体験に繋げた。少しずつ、友達とイメージを共有するようになり、やりとりしながら遊ぶ。こうしたらいいんじゃない？と提案したり、失敗しても「もう一回やってみよう！」とチャレンジしていた。できたよー！と大人にみせると満足した表情を見せる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分中心の遊びから、他児が作っているものへの興味が出てきて、模倣してみたり、作り方を聞いてみたりやりとりが豊かになった。イメージが共有出来る子同士（お家を作る子、線路を作る子）で遊びが長く続くようになり、失敗しても怒らず、再び挑戦したり、手伝ってあげたり良い関係性であると感じた。道路に信号や標識があること、家にある階段やお風呂など身近な物の再現が構造あそびに繋がった。